
早期臨床実習を終えて

歯学科3年 石塚 蓮

3年生の前期に早期臨床実習Ⅱが行われました。新型コロナウイルスの影響も少しずつ収まってきたため、1年生のときの早期臨床実習Ⅰとは異なり病院内での実習が可能になりました。様々な診療科において先生からの説明、臨床の見学や少しだけ器具を用いた実習が行われました。自分を含め多くの3年生が初めて大学病院内に入ったことと思います。私は小さい頃、何度も歯科医院に通っていました。しかしそのころの患者としての視点とは異なり、多角的な視点を持つことができ、とても有意義なものでした。

実習の中で強く感じたことは2～3年生で学んだ基礎系科目と臨床のつながりです。どの診療科においても感じたことですが、特に放射線科でそれを強く感じました。放射線科では放射線学の知識が必要なのはもちろんですが、解剖学の知識がとても重要であり、密接に関連していることに驚きました。実習でエコーを使って自分たちの頸部を見たとき、解剖学を学ぶ前の自分だったら何もわからなかった白黒の画像が何を表しているのかが分かり、確かな感動を覚えました。ここまで無我夢中で学んできたことが身につけており、また意味を成していることが嬉しかったです。また、月並みですが先生方の偉大さを改めて実感しました。様々な基礎系科目とこれまでの技術・経験を総動員し、一人の患者の治療の計画を考えて実行していく先生方の姿を見て尊敬とともに自分の目指すものの高さというものを痛感しました。

早期臨床実習Ⅱは今後の自分の学習の方向付けになったと思います。求められる知識や技術・患者に対する姿勢などを再認識する良い機会になりました。3年生の後期からより歯科系の専門的な授業が始まっていきます。早期臨床実習Ⅱで学んだことを少しでも意識しながら一つずつ身に付けていき、より良い歯科医師になれるよう頑張りたい

と思います。今回実習においてご協力を頂いた先生方、大変ありがとうございました。

歯学科1年 佐藤 知香

新型コロナウイルス感染症の流行により、3年間休止していた対面での早期臨床実習が今年から再開されました。1年の講義は教養科目が多かったのですが、医歯学総合病院で早期臨床実習をし、歯学部に入社したという自覚を持ちました。

早期臨床実習では、治療見学実習、患者役実習、車椅子実習、全体発表をしました。治療見学実習で大学病院を班別で見学して、歯科に多くの専門診療科があることに驚きました。どの診療科も初めて知ることが多く、とても興味深かったです。患者役実習では、6年生から歯型取りや歯科検診をしてもらいました。患者役をしてみても、患者さんへの細かいところへの配慮が大切だと感じました。車椅子実習では、患者役と介助役の体験をし、車椅子の押し方や声掛けの重要性を知りました。患者役では助けてもらえることのありがたみを感じ、介助役では患者さんへの配慮の重要性を知り、これから車椅子の方に接するとき、この経験を活かして適切に対応したいと思いました。全体発表では、治療見学実習とは違う人と班を組み、実習全体を通して気になったことを調べて発表をしました。同期や先輩と交流できたのは、対面形式での実習だったからこそだと思うので、これからもこの実習が対面で行われてほしいと思います。

大学病院で、白衣、フェイスシールド、メディカルキャップを着用して、感染対策や清潔を保って実習をしたことから、これから医療人になるという自覚、態度、身なりを知りました。6年生の先輩方を見たり、先生方からの説明を聞いたりして、これから歯科医師として学ぶことや必要なこ

とを知りました。それらをこれからの大学生活や将来に活かしたいと思います。最後に、これから対面で講義が受けられることに感謝するとともに、先生方、患者さん、先輩方など、この実習に関係された方々の協力があってこそその実習だったと思うので、この場をお借りして感謝を伝えたいと思います。

口腔生命福祉学科2年 水間希美

「実際の現場に行くのは初めてだね!」「緊張する…」早期臨床実習ⅡBを控えた私達はこんな会話をしていました。1年時に行われた早期臨床実習ⅠBでは新型コロナウイルスの影響で病院見学をさせていただくことができず、講義やグループでの学習やプレゼンテーションを行いました。2年生になり、少しずつ新型コロナウイルスが流行する前の日常を取り戻し、歯科や福祉の現場での実習を体験させていただくことが出来るようになり、歯学部に入學してから初めての現場での実習に少しの不安と喜びの気持ちでいっぱいでした。

前半で行われた1歳6か月、3歳児検診の付き添い見学では検診や福祉の現場での歯科衛生士が担う役割について学びました。そこでの歯科衛生士の役割は歯科医師の補助にとどまらず、おやつや嗜好飲料の摂取状況の聞き取り、定期検診についてなど赤ちゃんとお母さんの様子をよく観察し、お母さんの疑問や心配事に寄り添いながら保健指導を行う様子が見られました。医療人として相手を思う気持ちや態度がとても重要だということに改めて感じました。また、ばんだい校園での実習では介護保険の制度や社会福祉士としての業務についても学ぶことが出来ました。同じ職業でも働く場所によって業務の内容が様々なことや、他の職種との関わりの広さに驚きました。

後半の授業では、バイタルサインの測定や歯科の外来における感染予防策、手洗いの方法など今後実習を行う上での基礎知識を学ぶことが出来ました。鋭利な器具や特殊な器具も多い歯科の分野でどのようにして患者と医療者の安全を守るのか

認識することのできるとても良い機会でした。

この早期臨床実習ⅡBの授業を通して様々な分野で活躍する歯科衛生士や社会福祉士の業務、そして実際の現場で働く方々の様子から医療や福祉の分野で働く上での真摯な態度の大切さや心構えについて学ぶことが出来ました。今後の授業や実習でも今回学んだ知識を活かして日々の学習に意欲的に取り組んでいきたいです。

口腔生命福祉学科1年 吉倉真帆

今年度の早期臨床実習では患者役実習、治療見学実習、車椅子実習、グループ討議を行いました。前年度までは新型コロナウイルス流行の影響で、これらの代わりに講義が行われていたと聞きました。制限は緩和されてきたものの、まだ完全に収束していない状況で見学実習を実施していただき、非常に貴重な機会となりました。

患者役実習では歯学部6年生の方に診察していただき、私たち1年生が患者役となる実習を行いました。全3回で構成され、1回目は口腔検診を受け、歯型取りをしました。2回目は歯の染色をして磨き残しのチェックと歯磨き指導、3回目は2回目での歯磨き指導を実践できたかのチェックを行いました。1年生2人につき6年生1人だったので患者役だけでなく診療補助も体験することが出来ました。診療補助で作業内容を見た上で患者役になってみると今までよりも不安感が減り、治療する側が手順を説明することの重要性を実感することが出来ました。

治療見学実習では医歯学総合病院の歯科診療部門4系列12診療科で実際の患者さんの診察、治療を見学させていただきました。自分には馴染みのなかった診療科が多くあり、どの診療科も興味深かったです。その中でも特に、歯の診療科での歯の神経を抜く治療が印象に残っています。初めて聞く治療法や初めて目にする器具が多く、驚きの連続でした。冠ブリッジ科では模型の歯形取りを体験し、楽しみながら学ぶことが出来ました。

専門知識を学ぶときと視点が変わってしまうため、その前のこの貴重な時期に、患者さんと同

じ視点から見学でき、非常に良い経験となりました。今後、専門知識を学んでいく際には治療見学実習で見聞きしたことをもとにイメージを浮かばせながら、理解の手助けにしていきたいです。将

来、治療をする立場になった時には患者役実習で感じたことを思い出して、患者さんの気持ちに寄り添いたいです。

